

人間科学科について知りたい方のための

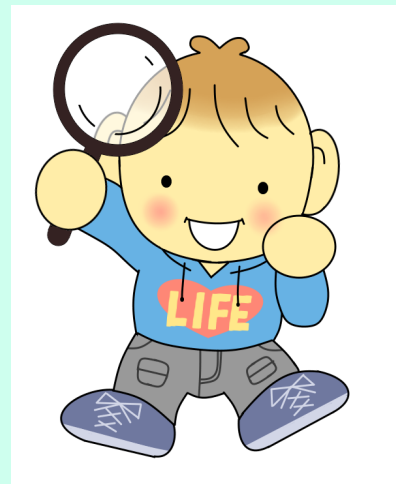
## フリーペーパー 『らいふみる』

2021年3月24日発行

## 【人間科学科ってどんなところ?】

—複眼的に「Life」をとらえ、心理・身体・社会から総合的に理解します—

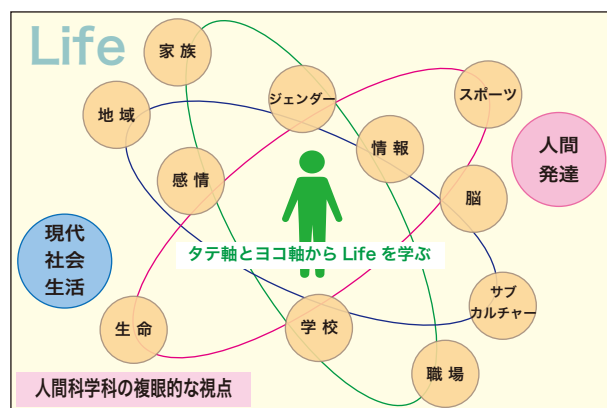
人間科学科では、「Life（生活・生命・人生）」が学びのテーマとなっています。そのため、生活・生命・人生などのLifeに関わることについて総合的に学ぶことができます。私たちが生きる現代社会においてLife（生活・生命・人生）はとても複雑なものとなっていますので、人間科学科では専門分野の垣根を越えて、心理学・社会学・身体科学などの各分野の知を結集することによって、Lifeを多角的・複眼的・複合的にとらえることを目的としています。また、そのような目的を達成するために、人間科学科では実験や調査を実際に行うような授業が多く用意されています。そのため、生活・生命・人生などのLifeに関わることについてさまざまな側面からさまざまなデータに触れながら学ぶことができます。ぜひ皆さんと一緒に人間科学科で「Life（生活・生命・人生）」について深く考えていけたらと思います。



学科キャラクター『らいふみる』くん

## 【人間科学科のカリキュラムの特色】

人間科学科のカリキュラムは、Life（生活・生命・人生）についてさまざまな側面から学ぶため、主として「人間発達プログラム」と「現代社会生活プログラム」という2つのプログラムで構成されています。各プログラムには心理学系・社会学系・身体科学系の科目が配置されていますが、「人間発達プログラム」はどちらかと言えば心理学系・身体科学系の科目を中心に構成されており、「現代社会生活プログラム」はどちらかと言えば社会学系の科目を中心に構成されています。これらのプログラムをバランス良く選択することによって、人間の思考や社会の流れを読み取り、Lifeを複眼的・複合的にとらえ、現代社会やそこで生きる人間の心理について幅広く学ぶことができます。そのため、カリキュラムを構成する心理学系・社会学系・身体科学系科目のあいだに垣根はなく、各自の興味関心や将来の進路などに合わせて自由に履修することができます。もちろん、心理学に重点を置いた学修や社会学に重点を置いた学修もできます。こうしたカリキュラムの柔軟性が当学科での学びの大きな特長となっています。



## 【人間科学科での4年間の学び】

1年次には、人間科学科での学びの基礎となる共通科目を通して、大学における学びの基礎的な知識・技能とともに心理学・社会学・身体科学の基本的な考え方・研究方法などの人間科学科で学ぶうえで必要となる基礎的な力を育みます。

2年次には、主に「人間発達プログラム」と「現代社会生活プログラム」の各カリキュラムに沿って、専門科目を基礎から応用へと順を追って学んでいきます。またそれとともに、実験や調査を体験的に学ぶ科目が多く用意されています。

3年次には、2年次と同様、「人間発達プログラム」と「現代社会生活プログラム」の各カリキュラムに沿って、専門科目を学んでいきます。この段階では、2年次までに学んだことの上に立って、より専門的な知識や技能を身につけることとなります。またそれとともに、卒業論文へとつながる少人数のゼミナール（＝「専門演習」）の授業が始まります。

4年次には、それまでに学んできたことをもとに、現代社会や人の心に関して自ら見いだした問題点を明らかにするべく、自分で実験や調査を行い、その成果を卒業論文にまとめて報告します。それによって、今日的な課題に対して時流にとらわれることなく主体的な態度で向き合うとともに、それを他者と協働しながら解決しようとする姿勢を育みます。

## 【人間科学科の授業】

人間科学科の授業は、右下の図のように、「基礎部門」「研究法部門」「専門部門」（「現代社会生活科目」「人間発達科目」「演習科目」「特別研究」）「卒業論文」から構成されています。

「基礎部門」は、主に1年次に履修する科目であり、「人間科学の基礎」「心理学の基礎」「社会学の基礎」「身体科学の基礎」などの科目を通して、心理学・社会学・身体科学の各分野の基礎を学びます。また、「基礎ゼミナール」は、少人数のクラスで人間科学科での学び方（発表の仕方やレポートの書き方など）を身につけます。

「研究法部門」は、主に1年次から3年次にかけて履修する科目であり、「心理学研究法」「社会調査法」などの科目を通して、心理学・社会学・身体科学の各分野の研究方法の基礎を学びます。また、「心理学実験基礎演習」「身体科学実験基礎演習」「社会調査演習」は、実験や調査の企画・実施からそれをもとにしたレポートの執筆までを体験的に学ぶ科目です。そして、「研究法部門」全体を通して、PCを使いながら、データ分析や図表の作成、論文らしい文章表現やプレゼンテーションなどの技法を学ぶことができます。

「専門部門」の科目は、主に2年次から4年次にかけて履修する講義形式で行われる授業であり、「人間発達科目（A群）」と「現代社会生活科目（B群）」という2つの科目群の中から自分の好きな科目を選び、心理学・社会学・身体科学のさまざまな専門分野について学んでいきます。2つの科目群の授業をバランスよく履修することで人間のLifeについての理解を深めることができます。

3年次に履修する「人間科学専門演習」では、少人数のゼミで特定の研究領域を深く学んでいきます。「卒業論文」は、4年次に履修する単位であり、人間科学科における4年間の学びの総まとめとして、自分で選んだテーマについて独自の問いを立てて、教員の指導を受けながら自分で実験や調査を行い、その成果を論文にまとめます。身近なことならどんなことでもテーマにすることができるのは人間科学科の卒業論文の特徴といえるでしょう。次号の『らいふみる』では過去の卒業論文のテーマについて紹介する予定です。



人間科学科の授業一覧

### <基礎部門>

人間科学の基礎、心理学の基礎、社会学の基礎、身体科学の基礎、基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ

### <研究法部門>

心理学研究法 A・B・C、社会調査法 A・B・C、社会学の理論と方法、心理学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ、身体科学実験基礎演習、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、社会学講義 A・B、社会統計学、多変量解析入門、質的社会調査法

### <専門部門>

#### <人間発達科目（A群）>

生命科学  
身体活動の科学  
発育発達と運動  
脳と心  
基礎心理学  
心の認知科学  
認知社会心理学  
感情心理学  
生涯発達心理学  
親と子の発達心理学  
生と死の社会学  
ライフコース論  
健康心理学  
動物と人間の心理学  
人間発達特講 A・B

#### <現代社会生活科目（B群）>

コミュニケーションの心理学  
社会心理学  
ジェンダー論  
現代社会論  
家族の社会学  
生活環境の社会学  
都市と地域の社会学  
職場の社会学  
仕事の社会学  
文化の社会学  
情報と社会学  
出版文化論  
社会問題論  
現代社会生活特講 A・B

### <演習科目・特別研究>

人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ、人間科学特別研究

### <卒業論文>

卒業論文

## 【人間科学科の強み】

- 幅広い学び：心理学・社会学・身体科学を中心に、専門分野の垣根を超えて幅広く学ぶことができます。
- 多様な視点：「Life（生活・生命・人生）」に関わる多様な視点を生かしながら、自分自身で考え、自分で実験や調査を行い、取得したデータを自分で分析・解析して、独自の解釈や主張を展開できる人材の育成に力を入れています。
- 段階的学修：1年次から徐々に研究の技法を学んでいくことで、4年間を通してさまざまな問題解決の過程を体験的に学ぶことができます。3・4年次には自ら設定した問題を実験や調査を通して解決することに重点を置いています。
- 統計的解析：統計解析法などの数理的な情報を処理する能力を身につけるための授業が充実しています。このような授業を履修することによって、現代社会において求められている数字に強い人材として実社会に出ることができます。
- 少人数制：1年次から少人数のゼミナールを開講し、就学全般を支援しています。3・4年次のゼミナールは最大で12名となっており、3年次の演習から卒業論文の執筆までを同じ教員による指導のもとで取り組むこととなります。
- 教育設備：学科専用の心理学実験室・社会調査実習室・身体科学実験室・パソコン演習室が整備されています。これらの教室を有効的に活用しながら学ぶことによって、従来型の教室で学ぶよりもより発展的な理解が可能になります。
- 支援体制：授業のことだけでなく、4年間の学生生活全体をきめ細かく支援するための体制が整っています。学科専用の事務室には経験豊富な助手や副手が常に在室しており、学生生活の中で生じるさまざまな相談に応じています。



## 【授業紹介：心理学実験基礎演習】

心理学実験基礎演習では、心理学に関する実験や調査を実地で学び、自らデータを記録し分析したり、その結果をレポートに報告するといったことを行います。つまり、心理学の研究で実際に行われていることを学生自身がコンパクトな形で体験することを目的とした授業です。心理学を専門的に学ぶことができる大学では、このような形で実験や調査のしかたを学ぶことのできる科目を用意していることがふつうです。同様の科目は、認定心理士という学部レベルの心理学の基礎資格の修得にも必要とされています。つまり、大学において心理学を専門的に学んだと言えるためには、上に述べたような研究のプロセスについて学んでおり、それをある程度実践できることが求められるということです。実験や調査を自分たちで行ってみることによって心理学全般に関する学びを深めることができます。教科書に書いてあったことは何となく理解したつもりになっていても、実際にやってみると全然わかっていなかったことに気づくことができます。また、データをどのように収集し分析するのかを知ることによって、教科書に掲載されているグラフがどのように作成されるのかがわかり、より実感を持ってそれらの内容を理解することができるようになります。何より、心理学の実験や調査に参加者として協力することは心理学関連の学科に所属していなくても募集があれば可能です。学生の皆さん自身が実験者となること、さらには、実験や調査の報告者となることは、心理学関連の演習授業を履修する以外の手段では難しいと思います。心理学関連の演習授業の基礎として重要な位置づけを担う科目です。



授業内での実験の様子

## 【授業紹介：身体科学実験基礎演習】

「身体科学実験基礎演習」は主に2年生を対象とした授業で、秋学期に開講しています。運動や生活習慣によって生ずる身体的、心理的な変化を明らかにするための実験、測定および調査に関する基礎的な知識と技術を習得することを目的としています。1年次に開講している「身体科学の基礎」や2年次春学期に開講している「身体活動の科学」という2つの講義科目です。すでに学んだ理論をベースとしていますので、実践編あるいは応用編と考えてください。

この授業では以下のような4つのテーマから構成されています。

- 1) 計測機器を用いた形態の計測、心拍数および運動能力の測定
- 2) 栄養摂取状況調査および身体活動状況調査による評価
- 3) アクチグラフと調査票を用いた睡眠の評価
- 4) 測定機器、調査票を用いたストレスと感情の評価

身体機能を評価するためには専用の測定機器、計測機器がありますので、それらの正しい使用方法を学ぶことはとても重要です。また測定や調査で得られた結果（データ）については研究法の授業で学んだ統計法を用いて分析を行います。またこの授業の総仕上げとして「運動負荷テスト」と呼ばれる測定を例年行っています。運動に自信のある学生にトレーニングジムにあるような動かない自転車能力の限界近くまでこいでもらい、心拍数、血中乳酸値などさまざまな生体指標を測定します。実際に行った実験結果が教科書に書かれているものと一致していることをリアルタイムで確認できるので、みんなそれなりに感動します（自転車をこいでいる人はそれどころではありませんが・・・）。

## 【授業紹介：社会調査演習】

「社会調査演習」は社会調査士資格認定科目（社会調査士の資格を取得するためのものとして認定されている科目）のひとつであり、人間科学科ではこの「社会調査演習」を含む社会調査に関わる一連の科目を修得することによって、社会調査士の資格を取得することができます（社会調査士の資格については次頁を参照してください）。そして、社会調査士資格認定科目の中でも、「社会調査演習」は、1年間を通して学生が中心となって大学の外で社会的な調査を実施し、そのデータを分析して、調査報告書を作成するという、とても実践的な科目となっています。特に人間科学科では、「社会調査演習」が、毎年少人数（20名以下）の複数クラス（3～4クラス）で開講されており、どのクラスも数人の学生がひとつのグループとなってお互いに協力し合いながら調査を実施するような授業となっています。そのため、学生にとって「社会調査演習」は、ほかの講義科目と比べても、比較的負担の大きなものとなっていますが、その充実した学びが得られるとともに、学生同士の仲が深まるような授業にもなっているのではないかと思います。

## 【授業紹介：専門演習】

大学でもっとも重要な授業は3、4年次のゼミとよばれる授業です。人間科学科では人間科学専門演習がゼミにあたります。各クラスごとにテーマが設定され、1年間かけて少人数での授業が行われます。人間科学専門演習では、同じ教員のクラスで同じ学生の仲間と1年間の学びを進めていきます。そして4年生の卒業論文も専門演習の教員の指導をうけなが同じチームで取り組んでいきます。2年間にわたり一貫した指導を受けることができるのが人間科学科のカリキュラムの強みです。2020年度から新たにスタートしたカリキュラムでは1週あたり200分の授業となりました。従来よりもじっくり議論したり本格的なリサーチに取り組めるようになります。

## 【2020年度の専門演習のテーマ】

荒生ゼミ 生理・行動指標による心の探究とその応用  
井関ゼミ 認知心理学の研究法を学ぶ  
谷田ゼミ 利他的行動についての心理学実験・調査  
長谷川ゼミ 日常生活に関することをテーマとした心理学的研究  
内田ゼミ 生活習慣が及ぼす身体的・心理的影響について研究する  
河合ゼミ 社会学の理論と方法の理解を深め、活用する  
今村ゼミ メディアの特性をしらべる  
井出ゼミ 「働くこと」を入り口に、Lifeを社会的に考える  
荒川ゼミ 論理的に社会と向き合う感覚をつかむ  
木村ゼミ 時間（過去・現在・未来）と生（Life）を社会学する  
田中ゼミ ジェンダーの視点から社会を読み解く  
澤口ゼミ 食の社会学—食からみえる現代社会—

## 【取得できる資格：認定心理士】

人間科学科では、心理学系科目の単位を修得すると卒業後に「認定心理士」や「認定心理士（心理調査）」という資格を取得できます。

認定心理士とは、「心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得している、と日本心理学会が認定した人」のことです。国家資格ではないため、心理学系の仕事に就くことが保証される資格ではありませんが、規定の単位を修得すれば、公益社団法人の日本心理学会が認定する資格を取得することができます。心理学の知識に加え、基本的な心理学実験の経験を重ねて、研究方法や分析の技能を学びます。さらに、心理学系教員を指導教員とした卒業論文を提出すると、認定心理士の上位資格である認定心理士（心理調査）の取得が可能となります。「心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士」であると日本心理学会が認定する資格が認定心理士（心理調査）です。調査や実験などを自ら計画し、データ収集と分析を経て、それらをレポートにまとめる能力が身につきます。

認定心理士や認定心理士（心理調査）は、社会調査士との同時取得も可能です。

## 【取得できる資格：社会調査士】

人間科学科では、前頁の「社会調査演習」を含む社会調査に関わる一連の科目を修得することによって、「社会調査士」の資格を取得することができます。

社会調査士とは、一般社団法人社会調査協会が認める民間の資格であり、インタビュー調査やアンケート調査などの社会調査を行ううえで必要な能力をもった「社会調査の専門家」であることを認定するものです（社会調査協会HPより）。特に、人間科学科では、社会調査士の資格を取得するために必要な一連の科目が、学科の選択科目の中に配置されていますので、学科での4年間の学びの中で無理なく社会調査士の資格を取得することができます。そのため、心理学を重点的に学びたいという学生や心理学のゼミに所属する学生であっても社会調査士の資格を取得することができるようになっています。

また、そうした社会調査に関わる一連の科目を履修することは、社会調査士の資格を取得するためだけでなく、卒業論文の執筆などにも活かされています。人間科学科では毎年一定数の学生が、社会調査士の資格を取得したうえで、インタビュー調査やアンケート調査にもとづく卒業論文を執筆しています。

## 【編集後記】

\*『らいふみる』の2021年版の第1号（2021年3月24日発行）を発行いたしました。今回は主に人間科学科のカリキュラムと授業の概要についてご紹介いたしました。今後も『らいふみる』を通して人間科学科のことについていろいろご紹介していきたいと思っておりますので、ぜひご覧いただけたらと思います。

\*『らいふみる』は大正大学心理社会学部人間科学科について知りたい方のためのフリーペーパーです。本冊子の記事や写真などを無断で複製・転載しないようお願いいたします。また、人間科学科について詳しくは、下記のURLか右記のQRコードから学科のブログをご覧いただきたいと思っております。

（人間科学科ブログ：[https://www.tais.ac.jp/faculty/department/human\\_sciences/blog/](https://www.tais.ac.jp/faculty/department/human_sciences/blog/)）

